

今こそシリコンバレーを經由して世界へ発信 ～マーケティングプレイスとしてのシリコンバレーの活用方法～

B-Bridge International, Inc. 代表取締役社長
榎本 博之



目 次

| | |
|--|----|
| 概要..... | 1 |
| はじめに | 1 |
| 1. 自己紹介 海外移住した経緯など | 2 |
| (1) 度重なる転居と海外放浪 | 2 |
| (2) 転職から起業へ..... | 2 |
| (3) 培われたマインド..... | 2 |
| 2. シリコンバレーとはどのような所か 歴史や現状 | 3 |
| (1) シリコンバレーとは? | 3 |
| (2) シリコンバレーの可能性：ヒト・モノ・カネが集結 | 4 |
| (3) なぜシリコンバレーなのか? | 6 |
| 3. 起業家精神を育てる環境に必要な 3 つの要素..... | 7 |
| 4. Marketing Place としてのシリコンバレーの活用法 | 8 |
| 最後に | 10 |

概要

コロナ禍により、今まで以上にオンラインを活用する機会が急速に拡大・発展している。物理的に海外と日本を行き来できない状況の今だからこそ、オンラインの活用によるアジャイルスタートが可能となり、日本の技術・製品・文化を迅速に世界に届けるチャンスともいえる。それには、多様性／Fail First／Try and Error の 3 要素がそろっているためイノベーションが起きやすい地域の特徴があるシリコンバレーは最適である。Silicon Valley Virtual Office やオンラインツールを介し、シリコンバレーをリモートで活用することで、世界を舞台にした事業展開も可能である。また、シリコンバレー（ひいては世界）で成功するために必要なマインドとしてアントレプレナーシップ（チャレンジ精神）を醸成することの重要性についても解説する。

はじめに

本講演では、シリコンバレーで事業を行うに至った背景として自己紹介をしたうえで、シリコンバレーの地理的・歴史的特徴に触れながら、シリコンバレーを経由して世界へ発信することの重要性、さらにマーケティングプレイスとしてのシリコンバレーの活用方法について紹介する。さらにコロナ禍の現在だからこそ有効な、オンライン交流ツールや Silicon Valley Virtual Office について紹介する。

個人のリーダーシップや会社全体で挑戦する精神を育てる場として最適なシリコンバレーの活用方法について知っていただき、事業拡大や従業員の育成などに活かしていただきたい。

1. 自己紹介 海外移住した経緯など

シリコンバレーの活用を紹介するにあたり、個人的に経験から得たことを紹介する。

(1) 度重なる転居と海外放浪

大学入学以前、富山県南砺市を起点に16年で8回も転居した。中学時代には父親の単身赴任先のインドネシア・西ジャワ州バンドンに約50日間滞在し、外国を意識するきっかけとなった。大学在学中は3万円で40～50日旅をする海外放浪を繰り返し、多くのチャレンジャーとの出会い・交流から、日々の生き方を企画するなど、プロジェクト意識を培った。

(2) 就職から起業へ

東洋紡株式会社に入社し生化学事業部配属後、11年間勤務した。ポリメラーゼなどの診断薬用の酵素の原料をマーケティングし海外に販売していた。ヘッドハンティングによりCLONTECH Laboratories, Inc. (以下 CLONTECH) に入社しシリコンバレーに渡った。上場を目指すプロセスの中で、プロジェクトのクロージングについて学んだ期間である。買収により上場は廃止となり、約200名の同僚が退職した。その大部分が後に起業していたことから、起業することがシリコンバレーの風土と知り、同様に考えてバイオ試薬流通事業でB-Bridge International, Inc. (以下 B-Bridge) を設立した。

起業当初、バイオテクノロジーの橋渡しを日米間で行うことを目的としていた。独自に研究開発した商品を世界に販売するとともに、顧客同士をダイレクトに繋ぐことで日米それぞれの顧客にメリットを生むということで、バイオ業界の流通にイノベーションを起こした。

(3) 培われたマインド

■2度の大地震で得たマインド：「将来の予測と、それに対処するための行動を考える」

1995年1月17日の阪神・淡路大震災では、当時在住していた神戸で被災した。当初は悩む時間が多かったが、次第に悩みを解決する方法を考え始めた。それが下記2点である。

- 1) 判断に有用な知識を付ける : 異業種含めたネットワークの強化
- 2) 飛び込む勇気、経験力 : 失敗を恐れずチャレンジを繰り返す

2011年3月11日の東日本大震災では、訪問先の仙台で被災した。B-Bridge 設立から11年目であった。在米日本人として日本に貢献したいという思いから、日本の企業と伴走し、海外事業の橋渡しをリードする事業に転換し始めた。一方グローバル人材育成の連邦政府認定NPO法人としてSilicon Valley Japan College を設立し、4年制大学の創設を目指しプロジェクトも推進している。